

狭山池博物館の運営について

対象受検機関：富田林土木事務所

事務事業の概要	検出事項	改善を求める事項(意見)																						
<p>1 狭山池博物館の概要</p> <p>(1) 狭山池博物館設置の経緯 西除川・東除川流域の治水対策として既存ため池であった狭山池に洪水調節機能を持たせるため、昭和63年度から治水ダム化工事に着手した。その際、出土した木樋や重源改修碑、築造の歴史を物語る堤体断面が、発見当時において、我が国の土木技術史を伝える貴重な土木遺産として認められ、府として、その土木技術や歴史的価値を後世に伝える必要性から、狭山池博物館を建設したものである。</p> <table border="1" data-bbox="320 772 1240 1186"> <tr> <td>設置目的</td> <td>狭山池の治水及びかんがいに関する資料等を収集し、保管し、及び展示して府民の利用に供し、もって土木事業の歴史的役割に関する府民の理解を深めるとともに、府民の文化的向上に資すること</td> </tr> <tr> <td>開設年月日</td> <td>平成13年3月28日</td> </tr> <tr> <td>規模・構造</td> <td>敷地面積 15,412㎡ 延床面積 4,948㎡ 地上2階（一部3階）鉄筋コンクリート造</td> </tr> <tr> <td>建設事業費</td> <td>53億円（建物44億円）</td> </tr> <tr> <td>実施事業</td> <td>土木遺構常設展示、企画展示、貸室（有料）</td> </tr> <tr> <td>入館料</td> <td>無料</td> </tr> </table> <p>(2) 来館者数 平成21年度より、府・大阪狭山市・地域との三者による共同運営を開始しており、以後、来館者は9万人から10万人で推移している。</p> <table border="1" data-bbox="252 1396 1311 1522"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来館者数(人)</td> <td>95,013</td> <td>103,595</td> <td>93,495</td> <td>89,331</td> </tr> </tbody> </table> <p>年間来館者数の目標を10万人として、新たな利用者を掘り起こすため、府・市・ボランティアの三者により、企画展示（鉄道模型展、写真展、昆虫展等）の開催に取り組んでいる。</p>	設置目的	狭山池の治水及びかんがいに関する資料等を収集し、保管し、及び展示して府民の利用に供し、もって土木事業の歴史的役割に関する府民の理解を深めるとともに、府民の文化的向上に資すること	開設年月日	平成13年3月28日	規模・構造	敷地面積 15,412㎡ 延床面積 4,948㎡ 地上2階（一部3階）鉄筋コンクリート造	建設事業費	53億円（建物44億円）	実施事業	土木遺構常設展示、企画展示、貸室（有料）	入館料	無料		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	来館者数(人)	95,013	103,595	93,495	89,331	<p>来館者へのアンケート調査（年齢層、居住市町村、来館目的、来館後の評価等）が不十分なために、博物館の設置目的に則した運営がどの程度行われているか十分分析できていない。</p> <p>審議会の委員構成をはじめ、博物館の運営について、経営の専門家の意見を取り入れられる仕組みとなっていない。</p>	<p>利用者の状況について、より詳しく調査・分析した上で、年間来館者の総数だけでなく、設置目的を果たすために期待される利用者層等に関する目標値についても設定し、効果的な事業展開に努められたい。</p> <p>来館が期待される様々な利用者層への働きかけに当たっては、府庁内外の組織・機関との連携・協力を努められたい。</p> <p>また、効率的及び効果的な運営について、経営の専門家の意見も取り入れた形で、議論することを検討されたい。</p>
設置目的	狭山池の治水及びかんがいに関する資料等を収集し、保管し、及び展示して府民の利用に供し、もって土木事業の歴史的役割に関する府民の理解を深めるとともに、府民の文化的向上に資すること																							
開設年月日	平成13年3月28日																							
規模・構造	敷地面積 15,412㎡ 延床面積 4,948㎡ 地上2階（一部3階）鉄筋コンクリート造																							
建設事業費	53億円（建物44億円）																							
実施事業	土木遺構常設展示、企画展示、貸室（有料）																							
入館料	無料																							
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度																				
来館者数(人)	95,013	103,595	93,495	89,331																				

2 博物館運営の見直し

(1) 財政再建プログラム案における見直し

平成20年の「財政再建プログラム（案）（平成20年度から22年度）」の策定において、公の施設のあり方が見直しされており、その見直しの方向性と対応状況は、以下のとおりである。

見直しの方向性	取組内容及び今後の状況	
大阪狭山市との共同運営による施設の有効活用	平成20年度	市の郷土資料館を博物館内に移設して府市共同運営することで合意し、詳細について協議
	平成21年度から	府市共同運営を開始（市の郷土資料館を博物館内に移設）
施設の有料化、開館日の縮小などの経営改善方策による運営の一層の効率化	平成20年度	設備保守管理業務の一括発注・一般競争入札によりコストを削減
	平成21年度から	人件費の削減、館内スペースの有効利用の際の使用料徴収により収入を確保
ボランティアとの連携により地域協働を積極的に推進	平成20年度	解説ボランティアの継続的協力（約30名が登録済） 地域協働による運営について協議を開始
	平成21年度から	地域協働による運営を開始

(2) 現在の収支状況

収入については大阪狭山市からの負担金（三者共同運営に関する費用負担の確認書に基づく、人件費、維持管理費等の市側の負担分）が主たるものとなっている。また、支出については、光熱水費を主とした維持需用費及び設備保守等に関する委託費が主たるものであり、府費が毎年9,000万円（大阪狭山市負担金を含む。）ほど投入されている。

保存設備の更新も必要となってくるが、施設の長寿命化については、府有施設のファシリティ・マネジメント（全庁的な取組）の中で、劣化度調査と中長期修繕計画を策定することになっており、平成30年度までに策定される予定である。

（単位：円）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
大阪狭山市負担金	7,730,912	7,677,114	7,775,514	7,259,813
その他	943,596	874,012	866,847	950,376
①合計	8,674,508	8,551,126	8,642,361	8,210,189
人件費	12,890,194	12,733,982	12,573,188	13,352,515
維持需要費	33,338,159	32,269,191	33,672,654	31,559,503
委託費	36,082,783	37,050,964	36,609,174	38,541,277
その他	12,083,648	8,150,041	7,813,785	6,907,896
②合計	94,394,784	90,204,178	90,668,801	90,361,191
収支（①－②）	△ 85,720,276	△ 81,653,052	△ 82,026,440	△ 82,151,002
施設の減価償却費	76,869,660	76,869,660	76,869,660	76,869,660
損益	△ 162,589,936	△ 158,522,712	△ 158,896,100	△ 159,020,662

<p>3 大阪府立狭山池博物館運営審議会について</p> <p>(1) 「大阪府立狭山池博物館の運営についての調査審議に関する事務」を担当するため、平成24年11月1日に、大阪府立狭山池博物館運営審議会（以下「審議会」という）を設置している。</p> <p>(2) 審議会委員の構成（15名以内） 専門分野が、文化財保存科学、土木工学、歴史地理学、日本古代経済史、生活文化、文化史、学校教育、観光事業の8名</p> <p>(3) 審議会開催状況 平成24年度（平成25年1月22日開催） （議題） 諮問（大阪府立狭山池博物館の運営改善について） 大阪府立狭山池博物館運営審議会の運営について 大阪府立狭山池博物館運営の現状について 大阪府立狭山池博物館の運営改善に向けた評価手法について 平成25年度 開催なし 平成26年度（平成26年11月20日開催） （議題） 大阪府立狭山池博物館運営の現状について 大阪府立狭山池博物館の運営改善に向けた評価手法について 大阪府立狭山池博物館の指定文化財等の展示保存状況と調査研究の現状について</p> <p>4 来館者アンケートの状況 特別展、企画展等に係る来館者アンケートを実施している（常設展示については実施していない）が、詳細な分析は行っていない。監査を通じて得られた分析結果は次のとおりである。 平成25年度特別展「近代狭山池の水利変革」（期間：平成25年10月5日から12月8日、来館者数16,561人）に係る来館者アンケートでは、回答58件と回答率が低く来館者動向等を見定めることは難しいものの、大阪狭山市及び堺市からの来館者数が54%となっている。 平成27年度特別展「近世狭山池絵図」（期間：平成27年10月10日から12月6日、来館者数13,101人）に係る来館者アンケートでも、回答は61件と回答率が低く来館者動向等を見定めることは難しいものの、大阪狭山市及び堺市からの来館者数が65.4%となっている。年齢層では、小学生が27.8%と最も多く、次いで、60歳から69歳が25.9%となっている。また、中学生、高校生はいずれも1.9%となっている。</p>		
---	--	--

措置の内容

利用者の状況をより詳しく調査・分析するため、新たにアンケートにおいて、来館のきっかけや、展示内容・テーマにかかる満足度等に関する設問を設け、来館目的や展示に対する評価が把握・分析ができるように改善した。併せて、回答数の増加を図るため、これまでの特別展及び企画展での実施に加え常設展示においても通年で実施することとし、アンケート用紙の配布ブースの増設や来館者への積極的な呼びかけを行った。この結果、アンケート回答数は、平成27年度の61件から平成28年度は939件に増加した。また、アンケート結果を分析し、平成28年度から展示説明パネルの文字を見やすく改良するなど、改善が可能な事項には速やかに対応し、効果的な事業展開に努めている。

来館が期待される様々な利用者層への働きかけに当たっては、府庁内外の組織・機関との連携・協力に取り組んでいる。具体的には、平成28年度より当博物館の目的である土木事業の歴史的役割に関する理解を深めることを目指して「土木」をテーマとした企画展を行っているが、まずは土木関連団体や企業に博物館の意義をご理解いただき、その上で貴重な展示資料の提供を受けることに成功した。また、展示においては、必要に応じテーマ選定から大学や土木関連団体の意見を聴くとともに、セミナー等での講演や後援を行っていただいている。このほか、情報発信において、府の広報媒体やイベントでのPRを行うとともに、近畿の土木関連団体、博物館、大学、図書館等の約530機関に対しポスターやチラシを配布しPRにご協力いただいている。

効率的及び効果的な運営について経営の専門家の意見を取り入れた形で議論することについては、平成28年度に経営の専門家にその方策を相談したところ、経営のみならず、当博物館の担うべき役割の再検討、ひいては当博物館の今後の方向性と将来像等を総合的に検討する必要があるとの意見を頂いた。これを受け、平成29年11月より大阪府立狭山池博物館運営審議会に、経営の専門家、土木史の専門家、ガイドボランティアなど新たな分野の委員を迎えた。今後、設置目的を果たすために期待される利用者層等に関する目標値のあり方を含め、多角的に審議をいただき、当博物館を効果的・効率的に運営するための中長期ビジョンの策定に取り組む。

監査（検査）実施年月日（委員：平成28年1月12日、事務局：平成27年11月6日）